

| | | |
|-----|-----------------------------------|--|
| 名 称 | 令和4年度 第2回 ほどがや市民活動センター評議会 議事録 | |
| 日 時 | 令和5年3月23日(木) 14:00~16:00 | |
| 場 所 | ほどがや市民活動センター(アワーズ) ミーティングスペース | |
| 出席者 | 評議会委員 | 小倉 敬子 委員 (公財)かわさき市民活動センター理事長 近藤 博昭 委員 横浜商工会議所西部支部 支部委員 竹迫 和代 委員 参画はぐくみ工房代表兼ファシリテーター 藤枝 香織 委員 (一社)ソーシャルコーディネートかながわ理事・事務局長 (欠席) 有元委員、堀委員 |
| | 保土ヶ谷区役所 | 地域振興課 地域振興課長 金子 強 " 生涯学習支援係長 李 悠 " 生涯学習支援係 ナイーム モハメド モアズ " 生涯学習支援係 鈴木 佑弥 " 生涯学習支援係 和田 喜代美 |
| | 協働運営会議 | 代表 清水 蓬山 |
| | 管理運営業務受託者 特定非営利活動法人 横浜市民アクト | 理事長 福島 伸枝 理事 佐藤 洋志 ほどがや市民活動センター センター長 北川 有紀 " 職員 吉弘 初枝 " 職員 小林 康夫 " 職員 近岡 友仁 " 職員 姉川 圭一 |

| | |
|----|--|
| 議題 | 1 令和4年度 ほどがや市民活動センター事業について 2 アドバイスシート記入 3 その他 意見交換 |
| 資料 | 1 令和4年度 ほどがや市民活動センター 第2回評議会委員・関係者名簿 2 令和4年度 ほどがや市民活動センター 事業目標一覧、事業報告書 3 令和4年度 ほどがや市民活動センター施設利用状況 (3-1) 利用者アンケート (3-2) 4 ほどがや市民活動センター評議会会則 5 ほどがや市民活動センター協働運営会議会則・組織図 6 「街の学習応援隊」事業概要 ※ アドバイスシート |

*金子地域振興課長の挨拶に続き、評議会会則第8条に基づき、委員4名出席のため、本評議会の成立が確認された。

*令和4年度第2回評議会議事録を、ほどがや市民活動センターホームページに掲載する旨を出席委員全員の了承を得た。

議題1：令和4年度 ほどがや市民活動センター事業について

事業のカテゴリーごとにセンター職員から説明を行い、その後委員からの質疑を受け、意見を聞いた。主に今年度変化したことや改善点、新しい取り組みなどを報告した。

■ 「土を耕す」カテゴリーの事業内容について

【センターからの事業報告】

● 「場の提供」について

- ・新型コロナウイルス対応の社会の落ち着きによって施設の利用件数、利用人数が戻ってきた。
- ・老朽化している施設のため付帯設備や下水管などの修繕費用が増えた。今後対応については区役所と丁寧な意見交換の場を設けていきたい。

● 「相談業務」について

- ・相鉄線高架事業の関連企業からの問い合わせが増え、今後の連携やつながり作りの一端が見えた。

● 事業「オンライン活動はじめ隊」について

- ・昨年度試験開催したスマホの勉強会を、今年度は隔月開催した。参加者が学びあう継続的な関係性を創ることに重きを置いたところ、参加者同士の自主的勉強会や交流につながった。

【委員からの質問・意見】

<意見>

- ・小破修繕金額について。一つの工事金額が60万円以下は施設受託者が行うというのは金額として高い。川崎市は30万円。また小破修繕と付帯設備は別だと思う。行政がこれらの分担内容について書面を示すとよい。

<区回答>

- ・他の施設との兼ね合いを見つつ協議していく。

<質問>

- ・企業からの相談も多いというが、事例を聞かせてほしい。

<アワーズ回答>

- ・相鉄線の高架事業に伴って天王町から星川の区間に出店した会社から、イベント開催や地域との関係づくりについて相談があった。また信用金庫からサンタプロジェクトへのイベント参加と協賛があった。

<質問>

- ・専門機関からの情報提供の必要性とは、具体的にどの専門機関か？

<アワーズ回答>

- ・発達障がいや精神疾患等。職員が対応するときの背景知識を得るため専門機関との連携を考えたい。

<意見>

- ・その内容ならば社会福祉協議会との連携を行うと良い。当事者連絡会やボランティアグループなど、アワーズに登録がなくても社協へ登録している団体はある。

■ 「種をまく」カテゴリーの事業内容について

【センターからの事業報告】

●事業「ほどがやサンタプロジェクト」について

- ・6年目の事業。アワーズの他に2会場（保土ヶ谷公会堂、星川1丁目公園）で開催した。
- ・運営委員会の体制づくりや目標ゴールの設定し直して、事業スタイルを検討したい。

●事業「定例おそうじ」について

- ・サンタプロジェクトからの派生事業。イベントだけでなく毎月2回定期的に実施。4歳の子どもから高齢者まで一緒に参加できるため交流になっている。
- ・2022年1月から12月の間で合計95kgのごみを拾った。

●事業「アワーズサロン」について

- ・事業を名称「OURS GREEN DAY」として再構築。団体支援が目的の事業。
- ・内容は、①みどりのワークショップ（グリーンボックス）、②モルック体験会（西谷AFC）の2種を毎月開催（8月以外）した。

●事業「デビュー講座」について

- ・今年度は区政推進課と共に企画し共催した。

●事業「大学生インターンシップ受入」について

- ・5人の大学生を短期で受入。アワーズの外に行き、現場の活動体験を行った。

●事業「街の学習応援隊」について

- ・区役所の委託事業。3つの柱となる事業、交流会、PR展、PR講座をそれぞれ実施した。

【委員からの質問・意見】

<質問>

運営委員会が主催になっている事業が、アワーズ主催事業と切り分けができていないのはいいか。

<区回答>

実行委員会形式で行うアワーズ主催事業と同等と考えている。団体の主体性をもとに徐々に手を離れていくぐらいの形が理想。打ち合わせを夜間や休日に行うなど工夫して実施している。

活動頻度が多くアワーズの負担が大きいので、メリハリをつけてアワーズが実施する部分の整理をしてほしいと思う。

<意見>

アワーズが主催となっていない事業は、きちんと主催者に運営を任せていけるよう一歩引いた対応も必要かと思う。

<質問>

定例おそうじのリピーターと新規参加者の比率は？

<アワーズ回答>

データを取っていない。新規はだいたい1~2割くらい。

<質問>

「アワーズサロン・グリーンデイ」は団体支援が目的と言っていたが、団体が企画して地域の参加者を募集する場ではなかったか？

<アワーズ回答>

参加者にとっては企画に参加して交流している内容の事業だが、アワーズとしては団体の運営や企画面での支援をする事業と考えている。

<質問>

団体自立に向けた組織基盤強化のプログラムを、アワーズが実施しているのか？ 次年度は別の団体が支援を受けるのか？

<アワーズ回答>

プログラムは作っていない。また団体の事情があるので1年という限定はしていない。

<意見>

団体の運営や企画をサポートするのが目的であれば、期限を決めて出口を意識してプログラムを組み立てないと、団体自身の力になっていかないのではないか。市民が地域活動に触れるきっかけづくりの事業はアワーズとして成功していると思うので、市民グループが主体的に活動を続けるための支援ができていくかという視点も持ってほしい。

<意見>

川崎では団体自立支援プログラムは3年間と決まっている。初年度は運営者の人数集め、企画づくりから事業実施までを自分たちで行わせる。そのために運営面を細かく担当職員が支援する。2年目は少し聞きながら自分たちで実施と、段階を経ていく。アワーズで内容を決めて団体を選ぶのではなく、支援する団体数を決めて募集し、自発的な意欲を引き出すのも大事。

<意見>

保土ヶ谷区には「はぐくみ塾」という事業があり、何かやりたいという人を募集して企画作りをチームで行っている。人間関係やチーム作りがうまくいかず1年目で力尽きる傾向があるが、3年くらいかけて事後グループの自立をめざしている。

<意見>

活動グループを生み出す講座のときには、最初から強制的にグループを作らせて地域で活動したい人を集め、1年かけて企画運営、事業実践まで行ってしまうのもよい。新しい地域おこしができ新しい団体が生まれる可能性がある。

■ 「水をやる」カテゴリーの事業内容について

【センターからの事業報告】

● 事業「みんなのひろば」について

コロナ前に実施したのは地域の環境を次世代につなぐ夜間講座だったが、今年は内容を変更して1回行う。(3/29 予定)

● 事業「学生スタッフ企画」について

学生自ら自主企画を立ち上げ運営する内容。事業の企画運営など細かな配慮の経験を積んでもらった。

【委員からの質問・意見】

<意見>

学生とのコラボは地域の団体にとっても元気をもらえる。「横浜アクションアワード」に関わった際に出会いは大切だと感じた。若い人が地域に関わってくれることが私たちの活動に良い刺激になる。

<質問>

みんなのひろばについて、今年度は計画の段階から1度だけの開催を予定していたのか。また、事業の位置づけはどういったものか。

<回答>

計画の段階では2、3回の開催を考えていたが、職員の役割分担の都合から計画変更した。

<意見>

「みんなのひろば」や「アワーズサロン」など、事業名称から中身や目的がイメージできない。この事業のカテゴリーも「水をやる」に該当するのか疑問。事業内容の棲み分けや目的を再検討し、わかりやすい名前にしたほうがよい。

■ 協働運営会議について

今年度、利用者アンケートは協働運営会議とアワーズと一緒に考えて、登録団体と街の学習応援隊登録者を対象にして実施した。次年度、協働運営会議全体会でこのアンケートを踏まえて今後の活動方針を策定したい。

<意見>

協働運営会議は何をやっていく集まりなのか、その目的をゼロベースで検討してよいと思う。

<質問>

協働運営会議のメンバー数は？ 利用者全員が会議メンバーなのか？ 協働運営会議の全体会というのは、参加している人の全体会ということか？

<回答>

募集案内に応じた任意参加で、現在21人（団体含む）が参加している。そのメンバーで全体会を開く。

<意見>

協働運営会議に入っていないくても、アワーズに登録している方全員からアイデアをもらえるような意見交換会、交流会というのをやって、1年に一度でいいからアワーズの事をみんなで考える場があってもいいと思う。

■ その他意見

<意見>

地域の課題を自らが解決していくため活動を起こすような市民の姿が、アワーズの目標の中に見当たらない。アワーズが課題感を持っている人との接点を持ち、それを前面に出した事業構成を考えてもよいのでは。地域の課題は街の課題だけではなく、一人一人が直面する生活の課題である。大学生の切実な課題が街をきれいにすることなのか？ もっと個々に感じている課題があるのではないか。本音の自発性を出す「場」がこれらプログラムの中には見えなかった。参加はしやすいが活動の自発性をひきだす工夫がほしい。もう少し市民活動の種に直結するようなプログラムがあるといいと感じた。

<意見>

与えられたプログラムから育ってくればよいというのは過保護と思うが生涯学習的でもある。自分の課題感から何かを生み出していくことを促すことも必要。今後は生涯学習的な視点と市民活動的な視点とでどんな割合でやっていくのかを考えること。これはアワーズの方向性にも関わってくる。

<意見>

街の学習応援隊について。新規登録者は紹介するまえに、交流会など適当な場でデモンストレーションをさせるという決めごとを作ったほうが良い。また登録者は自分で名刺を作り、何ができるかを書いたパンフレットやリーフレットを作るなど、自主性を持たせることをさせた方がよ

い。

<意見>

大学生同士の横のつながり作りなど大学がやることを事業としているところ、アワーズはお母さんのだなど感じる。もっとリアルな地域活動の現場に放り込み課題や現状を見せ、自分たちは何ができるだろうと考え行動させるのも一つだと思う。

議題2：アドバイスシート記入

議題3：その他意見交換